

一般社団法人プロジェクトマネジメント学会

2024年度定時社員総会資料

2024年3月7日（木）

2024年度定時社員総会式次第

時間 12:30 ～ 13:45

場所 東洋大学 白山キャンパス 6号館 6211教室

1. 開会宣言(社員総会成立要件の確認)
2. 議長指名及び書記指名
3. 第1号議案 2023年度事業報告
4. 第2号議案 2023年度決算報告
5. 第3号議案 繰越収支差額処分
6. 第4号議案 名誉会員（フェロー）選出
7. 第5号議案 年会費免除者選出

報告

8. 2024年度事業計画
9. 2024年度予算
10. 閉会宣言

一般社団法人プロジェクトマネジメント学会ビジョン：

プロジェクトマネジメントを学問・技術の体系として整備，確立，発展させ，国際社会に寄与する．そのために，広く様々な分野から参画する多数の会員により，常にオープン，中立的，協調的かつ学際的で活発な活動を展開する．これにより，学術的に優れた研究成果，技術および実践面での向上，プロジェクトマネジメントの一層の普及を実現するとともに，企業・産業・社会・経済・学問・文化の発展に貢献し，参画する会員に動機と達成感を与え成長し続ける学会を目指す．

一般社団法人プロジェクトマネジメント学会役員等一覧（2023・2024年度）

代表理事・会長	関 哲朗	文教大学				
理事・副会長	上坂 貴志	キンドリルジャパン	富安 寛	NTT データグループ	橋本 亨	富士通
	福岡 俊一	日本電気	細矢 良智	日立製作所		
役職 委員会	理 事				幹 事	
	委員長		副委員長			
総務	佐野 祥一朗	NTT データグループ	外山 孝伸 渡辺 秀樹	日本アイ・ビー・エム 日立製作所	竹内 俊一 浦川 伸一 神野 学 田中 秀彦 大串 智美 古川 夏帆 坂本 竜太	NTT データ MHI システムズ SOMPO システムズ 日立製作所 NTT データグループ NTT データグループ 日本アイ・ビー・エム 日本電気
論文審査	下田 篤	千葉工業大学	木野 泰伸*	筑波大学		
編集	渡辺 丈士	日立ソリューションズ・クリエイト	竹内 浩 西尾 好司 畠山 洋	日本電気 文教大学 富士通ジャパン	木野 泰伸* 下田 篤*	筑波大学 千葉工業大学
研究	尾崎 厚介	MI デジタルサービス	畠山 洋*	富士通ジャパン		
行事	木野 泰伸	筑波大学	井上 裕美 白井 明久 小笠原 浩 佐藤 奈津子 佐野 祥一朗*	日本 IBM デジタルサービス 富士通 日本電気 日立製作所 NTT データグループ	大崎 雄治	日本アイ・ビー・エム
表彰	小笠原 秀人	千葉工業大学	岡本 一真 酒井 理江 黄檗 隆	富士通 日本電気 NTT データ		
会長付	西村 忠興	NTT データグループ				
監事	相原 理	NTT データグループ	井沢 澄雄	日本電気		
本部運営管理室	室長 関 哲朗*	文教大学				
顧問	富山 博文	STNet： 四国支部長	片峯 恵一	九州工業大学： 九州支部長	田村 慶信	山口大学： 中国支部長
	太田 知良 (2023)	NTT データ東海： 中部支部長	菅谷 博文 (2023)	三菱電機： 関西支部長	川上 敬	北海道科学大学： 北海道支部長
	大日方 篤 (2024)	ソフトテックス： 中部支部長	上西 啓介 (2024)	大阪大学： 関西支部長		

(注1) 氏名の*は，兼務者

アドバイザー・ボード（大野 治 議長，河合 輝欣* 顧問）

ボード・メンバ	加藤 洋	日本アイ・ビー・エム	林 恒雄	富士通	徳永 俊昭	日立製作所
	小玉 浩	日本電気	竹内 俊一	NTT データ MHI システムズ		

第1号議案 2023年度事業報告

1. 「事業概況」(会長：関 哲朗)

新型コロナウイルス感染症の扱いが五類感染症に変更されたことにより、本学会の活動を含む様々な活動が急速に従前の状態に回復しつつあります。一方で、ウクライナや中東の情勢など、世界的規模での不安定、不確実な要因が及ぼす諸活動への影響は否めません。本学会では、2023年5月9日の理事会決定による会告「学会活動における制約の解除について」を会員の皆様向けに発出し、社会の状況を注視しながら、会務及び会員サービスにおける従来以上の充実を目指した活動を行ってきました。コロナ禍からの回復期にある繁忙と新たな諸困難の中、本学会の活動に強い関心を向け、また、多くのご理解を示してくださった会員の皆様に深く感謝申し上げます。

2023年度は、以下の方針に従い、会務を運営しました。

- I. プロジェクトマネジメントを通じた社会貢献の実践
- II. プロジェクトマネージャの地位向上、プロジェクトマネジメントの一層の普及に向けた幅広い議論の場の提供
- III. 学会の運営基盤の充実

I. プロジェクトマネジメントを通じた社会貢献の実践

総務委員会 (IPMA関連担当) は、世界70カ国の代表団体によって構成される国際アライアンスInternational Project Management Association (IPMA) の会員として活動することで、会員の皆様と広く産業界の利益確保に適う活動を行っています。

- ・ 2023年9月に、スペイン・セビーリャで開催された IPMA Council of Delegates Meeting 及び併催された認証試験関連の会議には、会長を含む5名が出席し、意見交換等を行うとともに、2026年広島大会の共催に関する決定を得るなどの成果を上げることができました。
- ・ 認証試験に関しては、Certification Body (CB) の適切な運用に向けたスキームの整備を進め、IPMA Four-Level Certification のプロジェクトマネジメント・ドメインにおけるレベルDからレベルAに至る全レベルでの認証活動を成功裏に完了することができました。結果、2023年度には、レベルA:2人、レベルB:6人、レベルC:7人、レベルD:26人の個人認証を行うことができました。また、非営利法人たる本学会の会計上の透明性確保のために必要なCBの法人化に向けた検討を進めています。
- ・ Young Crew (YC) に関しては、本学会の行事委員会の活動と同期しながら、活発な活動を続けています。春季研究発表大会ではIPMAからAlmela氏 (CoD議長) とDing氏 (副会長) を、秋季研究発表大会では認証保有者である福田氏をお招きし、グループ・ワークに向けた課題提起を頂きました。ProMAC2023では、ベトナム・FPTソフトウェア社からの参加も得て、国際感覚溢れる意見交換の場を持つことができました。
- ・ 総務委員会では、有識者による会長の諮問機関であるアドバイザー・ボードの運営

を行う他、日本学術会議の協力学術研究団体や経営工学研究連絡会議（FMES）の活動に参画したり、関連学協会等との間で相互に後援、共催等の関係を結んだりするなど、国内における活動を積極的に進めました。

II. プロジェクトマネージャの地位向上、プロジェクトマネジメントの一層の普及に向けた幅広い議論の場の提供

一部の調査によれば、情報システム開発などの知識集約を必要とするプロジェクトの成功確率は、その社会やユーザからの高度化、複雑化、大規模化した要求に応えることで、必ずしも高い水準にはありません。一方で、人工知能のプロジェクトマネジメントや種々の開発、運用レベルでの活用は、従来のQCDSの目標値を守るというプロジェクトマネジメント、また、プロジェクトマネージャへの期待から、顧客、そして、自社の利益を確保するプログラムマネジメントと転換することを期待しています。本学会では、アドバイザリ・ボードの助言を得た理事会の決定により「プロジェクト・プログラム・ポートフォリオマネジメントで社会と顧客の価値創造に応える」と言った標語を掲げ、Project, Program and Portfolio Managementによる三層構造のマネジメントの理解と普及、及びIPMAなどの議論にも見られる人間系プロジェクトマネジメントに関わる議論の進展を目指し、広報・啓発の推進や会員間の議論の場を提供することで、会員の皆様と広く産業界の利益確保に適う活動を進めました。

- 論文審査委員会では、審査の迅速性と論文の質と量の向上を目標として活動しました。迅速性の面では2か月以内の審査完了を実現できましたが、論文の質と量の面では12編の投稿に対して、掲載に至る論文を得ることはできませんでした。年度を跨ぐ形にはなりますが、ProMAC2023の掲載論文から3編をSelected Paperの候補とし、掲載に向けた審査を継続中です。
- 編集委員会では、学会誌およびニュースレターを、年間計画に沿って発行しました。学会の各種イベントを報告・紹介するトピック記事は、イベントの開催から極力時間を置かず時宜を得た掲載になるように努めました。また、会員の皆様により有益な情報を提供できるよう、掲載記事の品質向上に努め、著者への執筆支援、論文審査委員会の協力を得たレビューの徹底、校閲体制の強化を図りました。
- 研究委員会では、システム開発判例研究会を含めた5つの研究会が活発に活動しました。学会誌に研究会報告を掲載し、各研究会の活動状況の報告を行い、秋季研究発表大会に研究委員会セッションを設けるなど、成果の発信に努めました。
- 行事委員会では、鹿児島県霧島市において春季研究発表大会を、山口県宇部市において秋季研究発表大会を、ベトナム・ハノイ市において4年ぶりの海外開催となったProMAC2023を開催しました。それぞれの発表件数及び参加者数は、春季：128件、333名、秋季：113件、365名、ProMAC2023：101件、262名でした。

III. 学会の運営基盤の充実

本学会の活発な活動を維持する上で、会員の増強は欠かせません。人数的な面で言えば、大野治元会長（現名誉会長、アドバイザリボード議長）の下で策定されたグランドデザインによって3,500名以上とされています。コロナ禍の影響を含め、会員数の漸減が進む中、会員各位の利益確保に向けた学会の運営基盤の充実を念頭に諸活動を進めました。

- ・ 表彰委員会では、理事会及び関連委員会との連携の下、表彰制度の運用を行い、各種表彰及び表彰行為、受賞者による講演会の実施、受賞報告書の出版により、個人及び組織によるプロジェクトマネジメント活動を奨励するとともに、その活動を公開することで会員の皆様と社会に向けた知識、知見とベンチマークの提供を行いました。2023年度は、名誉会長1件、プロジェクトマネジメント功労賞2件、学会賞1件、PM実施賞本賞1件、PM実施賞1件、PM実施賞奨励賞2件、PM実施賞エクセレントパートナーシップ賞1件、PM実施賞審査委員会特別賞1件、論文賞2件、文献賞1件、学生研究発表賞5件の表彰を行いました。
- ・ 総務委員会（会員増強担当）では、ミニイベント「シニアPMと語ろう」を1回開催した他、新春PMセミナーをオンライン形式で開催し、393名の参加者を得ることができました。
- ・ 総務委員会では、本部運営管理室の協力の下、本学会の諸活動全般を支援しています。また、会員数の維持、拡大による運営基盤の確立を目指し、ホームページや各種資料の最新化、充実を図ることで、会員の維持と新規参画の確保を目指しています。本委員会と本部運営管理室の活動には、理事会およびアドバイザリ・ボードの開催、学会発行書籍のISBN、ISSNの管理なども含まれています。
また、以下の支部活動の支援を総務委員会ですべて所管しています。
 - ・ 四国支部
年次研究大会を含め、3回の支部研究会を開催しました。
 - ・ 九州支部
支部新春セミナー、20周年シンポジウムを開催しました。製造系WG、TOC WG、SPI WGが支部研究会として活発に活動しています。
 - ・ 中国支部
1回の特別講演会、2回の支部セミナーをハイブリッド形式で開催しました。秋季研究発表大会を支部地域に誘致し、実行委員として大会の成功に貢献しました。
 - ・ 中部支部
シンポジウムを開催するとともに、月次でBABOK研究会を開催し、産学一体となった活動を行いました。2013年度から続いたBABOK研究会は、活動10年をもって一旦終了となりました。
 - ・ 関西支部
2回のシンポジウムを開催しました。3つの支部研究会（ソフトウェアプロジェクト研究会、PMコンピテンシー実践研究会、関西人工知能(AI)と統計モデル研究会）にて研究発表や事例紹介の活動をしました。
 - ・ 北海道支部
支部総会の実施を含め、北海道地域におけるプロジェクトマネジメント学会活動の定着を図り、「プロジェクトマネジメント学」の普及を推進する活動に努めてきました。コロナ禍の困難な状況下における2022年度秋季研究発表大会の開催に向けた貢献が評価され、プロジェクトマネジメント功労賞を受賞しました。

第2号議案 2023年度決算報告

貸借対照表

2023年12月31日現在

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	146,703,042	124,856,107	21,846,935
未収会費	1,837,000	2,716,000	△ 879,000
未収金	3,594,096	7,785,056	△ 4,190,960
貯蔵品	1,893,803	1,747,189	146,614
前払費用	104,763	104,763	0
仮払金	4,888,976	1,532,123	3,356,853
流動資産合計	159,021,680	138,741,238	20,280,442
2. 固定資産			
ソフトウェア	1,616,753	2,343,908	△ 727,155
差入保証金	1,200,000	1,200,000	0
固定資産合計	2,816,753	3,543,908	△ 727,155
資産合計	161,838,433	142,285,146	19,553,287
II. 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	15,365,076	1,510,400	13,854,676
前受金	11,895,000	11,707,000	188,000
預り金	78,667	10,274	68,393
流動負債合計	27,338,743	13,227,674	14,111,069
負債合計	27,338,743	13,227,674	14,111,069
III. 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
2. 一般正味財産	134,499,690	129,057,472	5,442,218
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
正味財産合計	134,499,690	129,057,472	5,442,218
負債・正味財産	161,838,433	142,285,146	19,553,287

正味財産増減計算書

2023年1月1日から2023年12月31日まで

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 受取会費			
学生会員会費収入	136,000	201,000	△ 65,000
正会員会費収入	15,032,000	14,368,000	664,000
法人会員会費収入	6,100,000	6,600,000	△ 500,000
受取会費計	21,268,000	21,169,000	99,000
② 事業収益			
研究発表大会収入	9,941,000	3,392,000	6,549,000
学会誌バックナンバー収入	8,500	2,500	6,000
論文別刷り収入	0	30,000	△ 30,000
広告料収入	240,000	519,000	△ 279,000
出版図書収入	16,000	42,500	△ 26,500
イベント収入	35,000	11,000	24,000
資格認定収入	1,928,000	1,584,000	344,000
四国支部収入	0	0	0
九州支部収入	0	0	0
中国支部収入	0	1,000	△ 1,000
中部支部収入	0	0	0
関西支部収入	4,000	0	4,000
北海道支部収入	0	0	0
国際会議収入	19,070,000	4,093,000	14,977,000
事業収益計	31,242,500	9,675,000	21,567,500
③ 雑収益			
受取利息	1,070	1,010	60
その他雑収益	22,251	1,321,197	△ 1,298,946
雑収益計	23,321	1,322,207	△ 1,298,886
経常収益計	52,533,821	32,166,207	20,367,614
(2) 経常費用			
① 事業費及び管理費			
会議費	6,831,118	1,876,699	4,954,419
旅費交通費	943,770	171,730	772,040
通信費	479,070	1,813,738	△ 1,334,668
消耗品費	192,992	149,517	43,475
印刷製本費	1,970,658	3,416,118	△ 1,445,460
賃借料	1,021,184	1,871,184	△ 850,000
水道光熱費	135,507	173,322	△ 37,815
地代家賃	1,257,156	1,257,156	0
諸謝金	636,069	161,440	474,629
租税公課	80,450	70,000	10,450
業務委託費	4,472,998	4,515,008	△ 42,010
支払手数料	2,859,771	3,250,362	△ 390,591
諸会費	3,869,574	3,216,598	652,976
雑費	617,940	379,936	238,004
国際会議開催費	20,438,191	24,000	20,414,191
減価償却費	727,155	727,155	0

接待交際費	8,000	0	8,000
②雑損失 その他雑損失	8,000	0	8,000
経常費用計	46,549,603	23,073,963	23,475,640
当期経常増減額	5,984,218	9,092,244	△ 3,108,026
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
未収年会費除名損失	542,000	1,896,000	△ 1,354,000
経常外費用計	542,000	1,896,000	△ 1,354,000
当期経常外増減額	△ 542,000	△ 1,896,000	1,354,000
当期一般正味財産増減額	5,442,218	7,196,244	△ 1,754,026
一般正味財産期首残高	129,057,472	121,861,228	7,196,244
一般正味財産期末残高	134,499,690	129,057,472	5,442,218
II. 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III. 正味財産期末残高	134,499,690	129,057,472	5,442,218

財務諸表に対する注記
2023年1月1日から2023年12月31日まで

1. 重要な会計方針

(1) リース取引の処理方法

リース取引の処理方法は、リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンスリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によります。

(2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によります。

当学会は会費収入が不課税となっているために、課税対象事業者とはなりません。そのため、決算処理上は税込み処理として一部事業性のある活動以外は消費税を計上しておりません。

2. 会計方針の変更

該当ありません。

3. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

該当ありません。

4. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

該当ありません。

5. 担保に供している資産

該当ありません。

6. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりです。

(単位：円)

科目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
ソフトウェア	3,635,775	2,019,022	1,616,753
差入保証金	1,200,000		1,200,000
合計	4,835,775	2,019,022	2,816,753

7. 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高

該当ありません。

8. 保証債務等の偶発債務

該当ありません。

9. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

該当ありません。

1 0. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高
該当ありません。

1 1. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳
該当ありません。

1 2. 関連当事者との取引の内容
該当ありません。

1 3. 重要な後発事象
該当ありません。

1 4. その他
該当ありません。

財 産 目 録
2023年12月31日現在

(単位:円)

科目	金額	
I. 資産の部		
1. 流動資産		
現金預金		
現金手許有高	54,000	
普通預金 三菱東京UFJ銀行 新橋支店	146,649,042	
未収会費		
2023年度年会費	1,245,000	
2022年度年会費	557,000	
2021年度年会費	11,000	
2020年度年会費	16,000	
2014年度年会費	8,000	
未収金		
経費等他社負担分	1,063,196	
クレジット・コンビニ回収	2,514,900	
その他未収金	16,000	
貯蔵品		
出版図書	1,893,803	
前払費用		
事務所賃料	104,763	
仮払金		
2022～2023年度活動経費	2,993,786	
ProMAC2023ツアー造成準備金	1,895,190	
流動資産合計		159,021,680
2. 固定資産		
(その他固定資産)		
ソフトウェア	1,616,753	
差入保証金	1,200,000	
その他固定資産合計	2,816,753	
固定資産合計		2,816,753
資産合計		161,838,433
II. 負債の部		
1. 流動負債		
未払金		
株式会社正文社に対する未払額	365,076	
株式会社HISに対する未払額	15,000,000	
前受金		
2023年度年会費	11,863,000	
2023年度以降年会費	32,000	
預り金		
源泉所得税	55,667	
その他預り金	23,000	
流動負債合計		27,338,743
2. 固定負債		
固定負債合計		0
負債合計		27,338,743
正味財産		134,499,690

キャッシュ・フロー計算書

2023年1月1日から2023年12月31日まで

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I. 事業活動によるキャッシュ・フロー			
1. 当期一般正味財産増減額	5,442,218	7,196,244	△ 1,754,026
2. キャッシュ・フローへの調整額			
①減価償却費	727,155	727,155	0
②未収会費	879,000	115,000	764,000
③未収金の増減額	4,190,960	△ 1,324,440	5,515,400
④貯蔵品の増減額	△ 146,614	△ 140,455	△ 6,159
⑤その他資産の増減額	△ 3,356,853	△ 1,532,123	△ 1,824,730
⑥未払金の増減額	13,854,676	△ 4,712,031	18,566,707
⑦その他の負債の増減額	256,393	6,469,306	△ 6,212,913
小計	16,404,717	△ 397,588	16,802,305
事業活動によるキャッシュ・フロー	21,846,935	6,798,656	15,048,279
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー			
投資活動によるキャッシュ・フロー	0	0	0
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー			
財務活動によるキャッシュ・フロー	0	0	0
IV. 現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0	0
V. 現金及び現金同等物の増減額	21,846,935	6,798,656	15,048,279
VI. 現金及び現金同等物の期首残高	124,856,107	118,057,451	6,798,656
VII. 現金及び現金同等物の期末残高	146,703,042	124,856,107	21,846,935

(注) 1. 資金の範囲 資金の範囲には、現金及び現金同等物を含めている。

当期末における正味財産の内訳は、次のとおりです。

(単位:円)

科目	前期末残高	前期繰越収支 差額処分	当期増加額	当期減少額	当期末残高
国際会議準備金	10,000,000	20,000,000		20,000,000	10,000,000
学会運営基金	65,000,000	5,000,000		5,000,000	65,000,000
国際標準化活動準備金	10,000,000	0		0	10,000,000
周年記念行事準備金	10,000,000	5,000,000		0	15,000,000
準備金計	95,000,000	30,000,000	0	25,000,000	100,000,000
差入保証金	1,200,000	0	0	0	1,200,000
繰越収支差額	32,857,472	2,857,472	5,442,218	△ 25,000,000	23,229,690
正味財産合計	129,057,472	32,857,472	5,442,218	0	124,499,690

監査報告

私たちは、一般社団法人プロジェクトマネジメント学会の2023年度業務執行ならびに収支計算および財産の状況について監査いたしました。

監査の結果、業務は適切に執行され、かつ、決算報告書類は当学会の収支および財産の状況を適正に表示しているものと認めます。

2024年2月21日

監事 相原 理



監事 井沢 澄雄



第3号議案 繰越収支差額処分

以下のように2023年度の繰越収支差額処分を提案します。

国際会議準備金	20,000,000円
次年度への繰越	3,299,690円
合計	<u>23,299,690円</u>

注) 繰越収支差額処分案には、当期期首(予算)における準備金等取崩しに対する戻入が含まれています。

第4号議案 名誉会員（フェロー）選出

一般社団法人プロジェクトマネジメント学会定款第15条1項9号にもとづき、以下の正会員を名誉会員とすること及び定款第15条1項1号の定めによる会費の免除の対象者とするを提案します。

以下の正会員は、一般社団法人プロジェクトマネジメント学会名誉会員規則第3条2項に基づく学会への長年に亘る貢献が認められ、理事会において審議し、名誉会員に推薦すること及び次年度以降の会費を免除する件を理事会の総意として議決しました。

1. 以下の正会員を名誉会員「一般社団法人プロジェクトマネジメント学会フェロー」とすること及び次年度以降の会費を免除する件

岩本 敏男 氏（会員番号：1001676）

推薦理由：NTTデータ前社長。プロジェクトマネージャとして、金融分野、公共分野における社会インフラとなるビッグプロジェクトを数多く手掛け、同分野の範たる姿勢を示した。また、本学会への社員参画を支援することで、本学会の発展に貢献した。

中島 純三 氏（会員番号：1002935）

推薦理由：日立製作所元副社長。プロジェクトマネージャとして、情報通信システム事業に携わり、同分野の範たる姿勢を示した。また、社員参画を支援する傍ら講演会等の講師を務めた他、アドバイザー・ボードの初期メンバとして本学会の発展に貢献した。

アドバイザー・ボード メンバ（2007～2012）

プロジェクトマネジメント功労賞受賞（2009）、学会賞受賞（2011）

富士 隆 氏（会員番号：1005399）

推薦理由：北海道支部の創設当初からその後の発展まで、長年にわたって貢献した。

北海道支部長（2015～2018）、同特別顧問（2018～現在）

学会賞受賞（2020）

第5号議案 年会費免除者選出

一般社団法人プロジェクトマネジメント学会定款第15条1項9号にもとづき、以下の正会員を定款第15条1項1号の定めによる年会費の免除者として提案します。

以下の正会員は、長年に亘り会員資格を継続されていることを鑑み、理事会において審議し、理事会の総意として会費を免除する会員に推薦することにしました。また、これらの方には、免除継続の同意確認を毎年行います。

1. 以下の正会員を次年度以降の会費を免除する件

関 繁 氏 (会員番号：1000609)

酒井 博明 氏 (会員番号：1001236)

(報告事項)

- 以下の推薦理由の通り理事会において審議し、学会賞、プロジェクトマネジメント功労賞に推薦することを理事会の総意として議決しました。

<学会賞>

表彰対象：竹内 俊一氏 (会員番号：1000610)

推薦理由：副会長、理事として昨今の会員増強に貢献。また、2023年度からアドバイザー・ボードのメンバーとして発展に貢献したことに對し、学会賞を授与して感謝する。

理事・副会長 (2017～2020)

理事 (2021～2022)

アドバイザー・ボード メンバ (2023～現在)

表彰対象：大田黒 俊一氏 (会員番号：1001818)

推薦理由：九州支部の創設当初からその後の発展まで、長年にわたっての貢献。また、2017秋季研究発表大会(福岡)では、熊本市、九州旅客鉄道と調整し、熊本地震における対応、ななつ星列車の実現といった、参加者にとって今後の教訓や参考となるキーノート講演の実現に貢献したことに對し、学会賞を授与して感謝する。

<プロジェクトマネジメント功労賞>

表彰対象：木村 利昭 氏 (会員番号：1002140)

推薦理由：会員歴20年であり、教育・出版委員会、表彰委員会の委員として、学会出版物の編集及び販売及び「シニアPMと語ろう」等の開催に貢献した。長年の学会への貢献に對し、功労賞を授与し感謝する。

表彰対象：FPT ジャパンホールディングス株式会社 (会員番号：3009050)

推薦理由：ProMAC2023の開催準備から当日の運営までを精力的に取組み、同大会の成功に強く貢献した。この貢献に對し、功労賞を授与し感謝する。

2. PM 実施賞各賞については、PM 実施賞審査委員会での検討、PM 実施賞選定委員会での審査を経て、以下の賞を授与することを理事会の総意として議決しました。

<PM 実施賞本賞>

表彰対象：浦川伸一 氏

取組名称：損保ジャパン基幹システム「SOMPO-MIRAI」プロジェクトの遂行

<PM 実施賞エクセレントパートナーシップ賞>

表彰対象：

取得側組織名称：朝日生命保険相互会社，株式会社インフォテクノ朝日

供給側組織名称：株式会社クレスコ

取組名称：朝日生命，インフォテクノ朝日，クレスコの3社によるCCoEの創設と業務システム群の大規模クラウド移行実現

表彰対象：

取得側組織名称：KDDI 株式会社

供給側組織名称：富士通株式会社

取組名称：パートナーシップ強化の3つの取り組みによる高品質なモダナイゼーションの完遂

<PM 実施賞審査委員会特別賞（5号表彰）>

表彰対象組織名：株式会社日立システムズ

取組名称：プロジェクト成功に向けた悪化予兆検知の改善

*本件はPM 実施賞奨励賞として応募いただきましたが，特別賞の授与に決定しました。

表彰対象組織名：三井情報株式会社

取組名称：三井情報におけるPM 育成と支援活動の効果と考察

*本件はPM 実施賞奨励賞として応募いただきましたが，特別賞の授与に決定しました。

(報告事項) 2024年度事業計画

1. 運営方針

我が国の成長戦略は、研究開発・イノベーション創出促進、グリーン・プロジェクトマネジメントと呼ばれるような省エネルギー・再生可能エネルギー投資の促進、デジタルトランスフォーメーションを目指したデジタル技術を活用した社会の革新や企業における新ビジネスへのチャレンジ等を期待しています。これらの事業の実施にプロジェクトマネジメントが必要なことは自明であり、これまでの複雑化、大規模化、グローバル化、デジタル化を伴う場で培ってきたプロジェクトマネジメントに新たなフィールドが与えられようとしています。このような時代の要請に対応するために、プロジェクトマネジメントの新たな展開が期待され、本学会の役割の重要性も強調されています。

本学会に与えられたミッションの達成、会員の利益に適う活動の実現に向けて、本年度の活動方針を以下のように定めます。

- I. プロジェクトマネジメントを通じた社会貢献の実践
- II. プロジェクトマネージャの地位向上、プロジェクトマネジメントの一層の普及に向けた幅広い議論の場の提供
- III. 学会の運営基盤の充実

これらの活動方針では、国際化の場に対する学会意見の提案、国内外関連団体との協調、国際会議 ProMAC の実施を通じた世界的協調の中でのプロジェクトマネジメントの啓発活動の実施および日本企業のイニシアチブの在り方を模索します。IPMA との連携を深めることにより、本学会の国内外におけるステータス向上を期すとともに、日本最大のプロジェクトマネジメント関連団体としての使命を果たし、国際的にも本学会の認知を広めていきます。

さらに、各種表彰活動を通じた傑出した個人の活動とベンチマークとなる企業等の諸活動の顕彰をこれまでの学会独自の活動に加え、IPMA が実施する国際表彰活動に拡大することで、これまで以上にプロジェクトマネジメントの議論の促進とプロジェクトマネージャの地位確立の場を創成します。

2. 事業計画

I. プロジェクトマネジメントを通じた社会貢献の実践

(1) 国際的な標準化活動等への積極的な関与

IPMA との協調活動の下、本学会の国際化を推進します。この活動には、本学会役員 IPMA 総会等への派遣、国際標準化活動、IPMA の知的財産の会員向け提供、個人認証の提供による会員の地位向上、IPMA の国際表彰制度への応募支援による個人と組織の地位向上、2026年の広島会議の準備などが含まれます。

(2) 国内の関連諸団体との協調

日本学術会議、経営工学関連学会協議会(FMES)などプロジェクトマネジメント関連団体の活動に積極的に関与し、プロジェクトマネジメント学会の認知度の向上に努めるとともに

に、関連団体の情報を会員向けに提供するよう努めます。

(3) 学会からの情報発信強化

研究成果やプロジェクトマネジメントに関わる知識の書籍化、セミナー、シンポジウム等の開催を積極的に進めます。これらのコンテンツには、IPMAの高水準かつ潤沢な知財の日本語化や標準カリキュラム、国際標準化動向、アジャイルなどの新しいプロジェクトマネジメントに関するキーワードを含みます。特に国際標準化動向においては、企業のベネフィット創造に関わる一連のフレームワークを示すPPP（Project, Program and Portfolio）マネジメントの考え方やPMコンピテンシなどと言ったグローバルな視点からの情報共有を積極的に進めます。

以上の活動は、主に総務委員会（IPMA担当）で行い、123万円の予算を計上します。（IPMA関連の一部は、Ⅲ.に含まれています。）

Ⅱ. プロジェクトマネージャの地位向上、プロジェクトマネジメントの一層の普及に向けた幅広い議論の場の提供

(1) 国際会議、研究発表大会などの開催と充実

国内研究発表大会と国際会議を通じて、プロジェクトマネジメント学会の会員の個人と組織の活動を共有する場を提供してまいります。国内大会につきましては、春季研究発表大会を3月7日、8日の両日に東洋大学白山キャンパスで開催し、秋季研究発表大会を8月29日、30日の両日に岩手県盛岡市で開催する予定です。また、国際大会であるProMACにつきましては、2023年は4年ぶりに国外開催（ベトナム ハノイ）を実現できましたが、これに続きProMAC2024の国外開催を予定しています。

研究会につきましては、2023年まで運用していた5研究会から2024年は4研究会となりますが、開催時期などの事前通知を徹底し、会員の皆様に参加頂きやすい研究会運営に務めます。また、研究会フォーラムやワークショップの開催を積極的に進め、会員間の活発な議論の場を提供します。

(2) 国内支部の活動のさらなる活性化

支部の活発な活動は、学会の発展に必要です。支部がより活動しやすくなるように、総務委員会を窓口として、本部と支部との連携を強化します。また、本年度は秋季研究発表大会の盛岡開催をきっかけとした、東北支部の設立を目指します。

(3) 学会誌と表彰制度の充実

論文投稿や審査の仕組みを検討することで1か月以内の審査結果通知を目標とします。

一般記事に関しては、学会誌及びニュースレターの年間発行計画の遵守を図るとともに、校閲機能の強化、充実などによって、会員の皆様の参考となる質の高い紙面の提供を目指します。

表彰関連では、PM実施賞各賞の受賞報告会や受賞内容の書籍化などを確実に実施し、会員の利益に資する活動の実現を目指します。

以上の活動は主に、論文審査委員会、編集委員会、行事委員会、研究委員会、表彰委員会で実施し、そのために5,696万円（国際会議準備金取崩3,000万円を含みます）の予算を計上します。

Ⅲ. 学会の運営基盤の充実

(1) 25周年事業の実施

2024年6月27日、有楽町よみうりホールにて25周年記念行事を実施します。記念講演会及び祝賀会の実施を計画していますので、会員の皆様におかれましてはご出席をご予定下さい。

(2) 会員利益の確保と会員数の増強

会員にとって魅力ある学会であり続けるための企画を積極的に実行することにより、既従会員の学会活動への参画を安定して維持できる運営体制の構築に努めます。

学会活動をさらに魅力あるものにするには、会員数の増加が不可欠です。また、より多くの分野との交流は、会員数の増加に直接的な効果を得るのみではなく、全会員の皆様の知識獲得に役立つものと思います。情報分野に限らず、土木・建設、機械等製品、食品、医薬等の分野への会員拡大に向けて、理事はもとより、委員会委員の皆様、会員各位と連携しながら会員数増強に取り組んで参ります。会員数増強と基盤整備の施策の実施に向けて学会運営基金を取り崩しの上、224万円の予算を計上しています。

(3) 各委員会の連携とサービスの充実

各委員会、支部の活動を活性化、拡大し、会員相互交流の場の創出と学問・技術の研鑽を支援し、学会の高度化を理事会一丸となって進めます。

以上の活動のほか、学会の総合的な運営は、総務委員会および本部運営管理室が中心となって行い、5,284万円の予算を計上します。

3. 支部活動

(1) 四国支部

香川大学、ITコーディネーター協会などの団体や他学会との交流を通し、プロジェクトマネジメント力向上に取り組み、活動の活性化と新規会員の獲得を目指します。支部総会の他に、支部研究発表大会、研究会（2回）の開催を計画します。

(2) 九州支部

3つのワーキンググループ（製造系WG、TOC WG、SPI WG）による研究活動ならびに講演会などの支部活動を通じて、入会促進を継続します。

(3) 中国支部

支部地域におけるプロジェクトマネジメントの普及と啓発を図ることを目的として、プロジェクトマネジメントに関するセミナー（3回）を支部会員向けのサービスとして提供します。これらの支部会員向けのサービスを地元企業などにも広報し、非会員の参加を募るとともに入会促進を図ります。

(4) 中部支部

生成AIの広まり等のプロジェクトマネジメントを取り巻く状況、環境の変化を踏まえつつ、学会員の方々の関心の多様化に答えられるよう、支部シンポジウム、トワイライトサロン、研究会の活動を行い、会員増強にも取り組みます。

(5) 関西支部

時々刻々と変わるビジネス環境において、プロジェクト環境も変化しており、この変化

に対応するため2回のシンポジウムを開催し、支部活動の活性化を図っていきます。また、3つの研究会（ソフトウェアプロジェクト研究会、PMコンピテンシー実践研究会、関西人工知能(AI)と統計モデル研究会）の活動を通して、産学の研究者・技術者の相互理解や交流の機会・場を増やします。特に、産業界にもアピールする研究成果や事例については、本学会が主催する全国大会や国際会議等での発表を奨励し、支部内外への情報発信と人的ネットワークづくりに努めます。

(6) 北海道支部

支部地域における学会活動の定着を図り、プロジェクトマネジメント学の普及を推進します。支部総会の他に、トワイライトサロン、支部講演会の開催を計画し、会員増強にも取り組みます。

各支部活動の主たる財源は、本部予算からの交付金によって賄われます。

(報告事項) 2024年度予算

2024年1-12月予算案
収入と支出の概要

収入の部	(単位:円)
会費収入	
(正会員会費収入)1516名	9,702,400
(学生会員会費収入)6名	14,400
(法人会員会費収入)110社(115口)	5,750,000
大会収入	
(春季研究発表大会)	5,310,000
(秋季研究発表大会)	5,310,000
国際会議収入	20,000,000
学会誌バックナンバ売上	240,000
論文別刷り	40,000
広告料	0
出版図書	150,000
四国支部収入(交付金:648,124円)	0
九州支部収入(交付金:784,354円)	0
中国支部収入(交付金:491,529円)	0
中部支部収入(交付金:957,549円)	15,000
関西支部収入(交付金:1,022,975円)	30,000
北海道支部収入(交付金:401,889円)	0
委員会イベント収入	30,000
受取利息	10,000
雑収入	50,000
受験料・登録料	2,200,000
国際会議準備金一部取崩	30,000,000
学会運営基金一部取崩	5,000,000
国際標準化活動準備金取崩	0
周年記念行事準備金取崩	5,000,000
除名会費取戻益	0
支部交付金引当金	0
繰越収支差額	23,299,690
収入合計	112,151,490

支出の部	(単位:円)
通信費	1,165,000
印刷製本費	2,266,500
消耗品費	157,000
給与手当	0
雑給(アルバイト)	375,000
諸謝金	917,932
旅費交通費	665,000
会議費	1,073,100
業務委託費	5,400,000
支払手数料	2,064,400
諸会費	4,017,767
賃借料	5,424,600
地代家賃	2,400,000
租税公課	100,000
水道光熱費	150,000
雑費	685,834
支部交付金	0
寄付金	0
会員増強費・基盤整備費	5,070,000
周年記念行事費	5,000,000
支部周年記念行事費	0
国際会議開催費(ProMAC)	50,000,000
支部研究会活動費	150,000
雑損失	0
予備費	25,069,357
支出合計	112,151,490

※支部交付金は合計4,306,420円ですが、資金の内部移動のため、ここでは0円が表示されています。

※各支部の前年度からの繰越金は、それぞれの雑費に加算計上しています。

※当期の期首準備金合計金額は120,000,000円ですが、当期の事業執行のために準備金から40,000,000円を取り崩しています。

結果、国際会議に30,000,000円、周年記念行事準備金に5,000,000円、学会運営基金に5,000,000円が割当てられています。

この他に敷金・差入保証金1,200,000円があります。

参考 「25年の歩み」

	主な施策		主な施策
1999年度	<ul style="list-style-type: none"> ・3月学会設立 ・学会誌, @PM. Letters 発行開始 ・研究発表大会開始 ・PM用語対訳集編纂 	2012年度	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道支部設立 ・ProMAC2012 主催 (ホノルル, USA)
2000年度	<ul style="list-style-type: none"> ・学会ビジョン策定 ・FMES 加入 ・大会併設のチュートリアル開始 	2013年度	<ul style="list-style-type: none"> ・学会表彰(文献賞, PM 実施賞奨励賞, PM 実施賞エクセレントパートナーシップ賞)創設 ・ProMAC2013 主催 (ハノイ, ベトナム)
2001年度	<ul style="list-style-type: none"> ・学会誌隔月刊化および特集化 ・学会ロゴマーク策定 	2014年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ISO/TC258 京都会議開催 ・創立15周年記念式典開催 ・ProMAC2014 主催 (クアラルンプール)
2002年度	<ul style="list-style-type: none"> ・日本学術会議学術研究団体登録 ・四国支部設立 ・JABEE 加入 ・研究委員会フォーラム開始 ・設立3周年記念シンポジウム開催 ・ProMAC2002 共催 (シンガポール) 	2015年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ProMAC2015 主催 (札幌)
2003年度	<ul style="list-style-type: none"> ・九州支部設立 ・研究論文に「研究ノート」を新設 ・トワイライトサロン開始 ・PM 普及図書出版開始 ・法人会員特別セミナー開始 	2016年度	<ul style="list-style-type: none"> ・学会表彰(学生研究発表賞)創設 ・ISO/TC258 W4 東京会議開催 ・ProMAC2016 主催 (ゴールドコースト, オーストラリア)
2004年度	<ul style="list-style-type: none"> ・教育フォーラム開催 ・表彰制度策定 ・学会設立以来の学会誌・@PM. Letters の電子化 (DVD-ROM 化) ・学会ホームページのリニューアル ・ProMAC2004 開催 (幕張メッセ) 	2017年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ProMAC2017 主催 (ミュンヘン, ドイツ)
2005年度	<ul style="list-style-type: none"> ・中国支部設立 ・学会表彰(学会賞, 論文賞, 論文奨励賞) 開始 ・学会パンフレット作成 	2018年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ProMAC2018 主催 (バンコク, タイ) ・中部支部10周年行事開催
2006年度	<ul style="list-style-type: none"> ・西船橋に新事務所開設 ・ProMAC2006 主催 (シドニー, オーストラリア) ・九州支部シンポジウム開催 ・教育フォーラム2006 開催開始 	2019年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ProMAC2019 主催 (ヤンゴン, ミャンマー)
2007年度	<ul style="list-style-type: none"> ・アドバイザー・ボード創設 ・東京都港区新橋に事務所移転 ・代議員制への移行準備 	2020年度	<ul style="list-style-type: none"> ・創立20周年記念式典開催 ・ProMAC2020 中止
2008年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ProMAC2008 主催 (アンカレッジ) ・代議員制へ移行 ・中部支部設立 ・会員3000名を越す 	2021年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ProMAC2021 主催 (熊本)
2009年度	<ul style="list-style-type: none"> ・一般社団法人化 ・設立10周年記念行事開催 ・ProMAC Symposium 2009 主催 (バンコク, タイ) ・学会表彰 (PM 実施賞) 創設 	2022年度	<ul style="list-style-type: none"> ・IPMA 資格認証試験の全 Level の運用開始 ・学会誌およびニュースレターのデジタル発行開始 ・ProMAC2022 中止
2010年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ProMAC2010 主催 (幕張メッセ, 東京ディズニーリゾート) ・関西支部設立準備委員会設置 ・標準書「母体組織のプロジェクト推進機能」を発行 	2023年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ProMAC2023 主催 (ハノイ, ベトナム)
2011年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ISO/TC258 国内審議団体を日本規格協会と共同受託 ・関西支部設立 ・ProMAC Symposium 2011 主催 (バタム, インドネシア) 		